

# 「二十歳」を迎えた「市政会議」

## 婦人の声を市政に——今年も活発な質問戦

南門市連合婦人会（西森律会長、会員三千三百三十五名）の「第二十回市政会議」は、一月十九日、市役所大会議室に市内各地区の婦人代表ら約七十名、また執行部から小笠原市長や吉本・国沢両助役、関係課長らが出

席して開かれました。政治を台所に——と三十七年にはじまったこの会も、今年で二十回目。今年も各地区の婦人から寄せられた約百二十の「声」をもとに、四時間あまり熱心な討論が行われました。

や断されることなどにより、地下水やかんがい用水の問題が心配だ。答え、実際には、国や県が行っているのかわいことはわからないが、地下水などにも影響があると思う、万全を期すよう計画が進められていると聞いています。

問い、市の赤字の現状と将来への見通しはどうか。答え、現在、二つの公社の赤字は約二十七億円。比江の市有地を十三億円で売却するので、残る十四億五千万円を年間一億ずつ解消していく計画。この赤字には年間一億円以上の金利がかかっているの

で、十年以上はかかると思う。問い、職員質的向上、人事の合理化を……。答え、行政機能の向上のために、業務の民間委託や機構の改革なども検討していかねばならないが、同時に職員研修も強化していきたい。

問い、同和問題についての今回のアンケートでは、同和対策はもう終了してもよい、もうそんな段階にきているように思う、同和問題をあまり取上げすぎてかえって地区に対する偏見がでてきているのでは、過去のアンケートと比べると内容の変わった意見もあるようだが、どう思うか。答え、なかには当を得た意見もあるが、全体的にみると、この問題が、国民全体の責任であると受け



## 市政全般に約120の質問 議員も『我々も見習わなくては…』

質疑に先立ち西森会長、小笠原市長がそれぞれあいさつ。『先日、南門市成人式が盛大に行われたが、この市政会議も今年で二十歳を迎えることができ、二十歳を振り返ってみると、ややマンネリ化している、問題の突っ込みが足りない、などの指摘もあったが、毎回実施するアンケートも『突っ込んだもの』に少しずつ変わってきているようだ。今後も、家庭を通して市政をみつめていきたい。』

『多くの方々の意見を聞き、市政に反映していきたいと思っており、みなさんの『生の声』はたいへん刺激になる。アンケートのなかで市長への要望として、地区民との対話の場をもっとほしい、との意見が出ていますが、あらかじめ連絡いただけたらお伺いしたいと思っ

ているので、声をかけてください。』このあと、市内各地区の婦人から寄せられた市政についての約百二十の質問をもとに、約四時間熱心な討論が行われました。主な質問、答弁は次のとおり。問い、空港拡張のためその周辺がどんなに変化、整備されていくのか、その未来図を聞かせてほしい。答え、ジェット機就航のため、千五百坪の現滑走路の南側に二千坪の滑走路を新設、面積は現在の約三倍になる。空港ビルは、県や市、関係企業などで別に会社（資本金約五億円）を作り運営することになる。吾岡山は、空港の端から五十分の一のこの配のなかにもあるものは取除かなければならないという基準により、六・七層切取らなければならぬ。地元から、法定（六・七層）よりもっと切取って跡地を利用してほしい、との要望が出されているが、これには排水や財政面などで多くの問題が残されている。

止められていないように思う。同和対策審議会の答申をよく学習していただいているだろうか、私たちが全体の課題としてとらえていただけではないだろうか……。同和地域の実態、住宅問題や道路、環境問題、その他いろいろの問題について、遠くからながめるだけでなく、よく学習し理解してほしいと思う。同和問題が国民的課題である以上、目的達成のために市も努力を続けていかなければならない。同和対策事業は済んだ——現在の段階でこうした認識がでてくるということは、同和問題の不徹底で、責任を痛感している。実際に

問い、黒滝のし尿処理場は、約束の運営期限が今年三月末となっている。恒久施設の計画はどうなっているのか。答え、一日も早い恒久施設の建設が必要だが、なかなか大きな問題であり、いま努力をしている。地元をはじめ、周辺地域のみならず、近目中に地元へ出向き報告することになっている。問い、農家の家計に大きな影響をもつ減反政策、五十六年度はどうなっているのか。答え、農家経済に大きく影響するこの問題は、歓迎できるものでは

はないが、制度的なもので南門市だけがいないという訳にはいかず、ご協力をお願いしなければならぬ。今年の割当て面積は一八四四ヘクタール、昨年の実績面積一七五〇ヘクタールと比べると四割の伸び。問い、空港拡張について、県道前浜土佐山田線が滑走路の下を通る、滑走路により南北の水の流れがし

差別事件は続出している。この現実を多くの市民に知らせ、市民が考えて、判断をする場を作らなければならぬ。今後は、同和教育の学習会なども、多くの人たちに参加してもらえよう内容も検討していく。問い、巡回図書館を市内の全部の公民館に回わしてほしい。できなければ遠隔地だけでも……。答え、昨年も計画していたが、財政的なことから実現できなかった。五十六年度は、要望どおりにできるかどうかはわからないが、現在市にある車を使うなどして何らかの方法で実現したいと思っている。

問い、黒滝のし尿処理場は、約束の運営期限が今年三月末となっている。恒久施設の計画はどうなっているのか。答え、一日も早い恒久施設の建設が必要だが、なかなか大きな問題であり、いま努力をしている。地元をはじめ、周辺地域のみならず、近目中に地元へ出向き報告することになっている。問い、農家の家計に大きな影響をもつ減反政策、五十六年度はどうなっているのか。答え、農家経済に大きく影響するこの問題は、歓迎できるものでは

はならない点もあるようだ。『時間的なこともあり、来年は質問をもう少し絞ってみてはどうか。』と、『二十歳』を迎えた市政会議を激励。また、出席していた婦人の一人は、『今年も国際障害者年であり、市内の約千六百名の障害者の方々へのやさしい心くばりをはじめ、子どもの諸問題、国際婦人年の取り組み、婦人の地位向上、男女差別撤廃など幅広い運動を展開し、『魅力ある婦人会づくり』に今後

一月二十九日、香南中学校で生徒の先生に対する暴力事件が起きたことは残念なことです。全国的には、生徒の暴力事件が増えていることが、最近大きく報道されているもの、まさかわが南門市で起きようとは……。関係者はじめ、市民の驚きは大変なものです。南門市教育委員会（藤本茂樹委員長）は、県教育委員会との連絡をもちながら、善後策を検

討してきましたが、二月三日の校長会（小・中学校）で、次の主旨の通知を出して事件の再発防止を要請しました。◇すべての教育活動の計画を見直し、全教員の意思統一で一体となつて、楽しく、充実した学校生活を送れるよう配慮すること。◇学校生活の大部分を占める教科の指導には最大の注意をはらって、児童・生徒が常に積極的に、主体性をもって授業を受け、満足感、充実感を味わえる授業をつくりあげよう努力すること。また、すべての教育活動を通じて児童・生徒の個性や能力を伸ばすよう努力すること。◇児童・生徒が、学級、学校の諸問題を自分たちの問題として、協力し合つて積極的に取り組んで、規律正しい学級・学校を築くよう、適切な指導をすること。◇指導方針をはっきりし、児童・生徒に十分理解されるよう努め

たしかに、暴力生徒は悪いのですが、その責任が全部彼らにあると思つてはなりません。むしろ、その大部分が私たち大人にあると考えるべきでしょう。教育関係者や父兄だけでなく、大人みんなが、真剣に『子どもの幸せ』をめざして話し合い、態度を示せば、おのずと非行化は減少していくのではないのでしょうか。『子どもの問題は、大人の問題』——私たち大人は肝に銘じ、忘れてはなりません。

## 二度と起すな「校内暴力」 市民みんなで考えよう

一月二十九日、香南中学校で生徒の先生に対する暴力事件が起きたことは残念なことです。全国的には、生徒の暴力事件が増えていることが、最近大きく報道されているもの、まさかわが南門市で起きようとは……。関係者はじめ、市民の驚きは大変なものです。南門市教育委員会（藤本茂樹委員長）は、県教育委員会との連絡をもちながら、善後策を検

討してきましたが、二月三日の校長会（小・中学校）で、次の主旨の通知を出して事件の再発防止を要請しました。◇すべての教育活動の計画を見直し、全教員の意思統一で一体となつて、楽しく、充実した学校生活を送れるよう配慮すること。◇学校生活の大部分を占める教科の指導には最大の注意をはらって、児童・生徒が常に積極的に、主体性をもって授業を受け、満足感、充実感を味わえる授業をつくりあげよう努力すること。また、すべての教育活動を通じて児童・生徒の個性や能力を伸ばすよう努力すること。◇児童・生徒が、学級、学校の諸問題を自分たちの問題として、協力し合つて積極的に取り組んで、規律正しい学級・学校を築くよう、適切な指導をすること。◇指導方針をはっきりし、児童・生徒に十分理解されるよう努め

たしかに、暴力生徒は悪いのですが、その責任が全部彼らにあると思つてはなりません。むしろ、その大部分が私たち大人にあると考えるべきでしょう。教育関係者や父兄だけでなく、大人みんなが、真剣に『子どもの幸せ』をめざして話し合い、態度を示せば、おのずと非行化は減少していくのではないのでしょうか。『子どもの問題は、大人の問題』——私たち大人は肝に銘じ、忘れてはなりません。